

基礎学習

かずとことばの授業。
手をつかって楽しく実際に学ぶ。



自由選択

アトリエ、ガラスの工作、ネイチャーゲーム、野球、料理、英語などなど、もりだくさん。



寮(生活の様子)

ウィークデーは寮に滞在ができます。寮でもミーティングがあり、生活の中で困ったことや、パーティーや誕生日などの楽しい計画を話し合います。通学も可能です。もちろん家が近くても寮に入ることもできます。



ベッドは居心地サイコー!

食事はカフェテリア方式。ゆっくりとお話しながら楽しんで食べるよ。

修学旅行

子どもたちが行き先を決め、計画をたて、手づくりの旅行をしています。3泊4日で、バスやフェリーなどをつかってまわります。



宍岐にてシーカヤックに挑戦。サング礁を見にいったよ。



広島の平和記念資料館にて

年間行事

春まつり、運動会など委員の子どもたちがアイデアあふれる企画を立てて、みんなでたのしみます。



子どもも大人も楽しむ、秋の大運動会

イギリスでの生活も楽しめるよ!

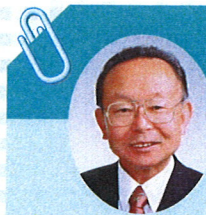
イギリスにあるキルクハニティは、きのくにに子どもの村学園がモデルにした自由学校です。1996年に閉鎖しましたが、自由教育の灯をともし続けようと学園があとを継ぎました。毎年、子どもの村からたくさんの小学生がキルクハニティに出かけます。



英語をつかったコミュニケーションも大切だ



イギリスでも子どもたちは元気いっぱい!



今沢 忠文 (いまざわ ただふみ)

山梨県南アルプス市 市長

南アルプス連峰の麓に広がる、自然豊かなこの地に「南アルプス子どもの村小学校」の開校おめでとうございます。

学園の特色ある教育と南アルプス教育とが互いに結び合い、本市の教育水準の向上が図られることを期待します。



野田 正彰 (のだ まさあき)

関西学院大学教授

この20年間、先生たちの教育に打ち込んでいるという思いが次第に減ってきたようです。子どもたちも学年が上がるにつれて、幸福感が減少しています。歳とともに可能性が大きくなり、世界が広がっていくはずなのに、逆になっています。子どもの村は違います。

子どもの村の先生は真直ぐ生きています。子どもたちも屈折した陰がなく、自分の考えを伝え、相手を理解します。それと共に、親たちも変わっていくようです。ここには子どもの成長を楽しむ、確かな人間関係があります。私は子どもの村に来ると、集って育つことがこんなにすばらしいことなのか、いつも気付かされます。



野川 真生 (のがわ まお)

きのくに子どもの村卒業 一期生 コロンビア大学 国際公共政策大学院在学中

ニューヨーク生活も3年目になり、今は念願だったコロンビア大学で中東地域の専攻をしています。大学院に通いながらつくづく実感するのは、いかにきのくにの流の“枠にはまらない世界観”が活きているかということです。それは例えば、人とは違ったカリキュラムの組み方であったり、担当の教授が評価して下さる個性的な視点であったり、また、基本的な人との関わり方にもあるかもしれません。いつも向学心を持ち続けられたのは、小学校、中学校時代にきのくにで身につけた知的好奇心が根強く残っていたからでしょう。きのくにで得たものは今でもかけがえのない財産です。何よりも、“自分の人生は自分で切り開いていくのだ”という意識、そして好奇心、特に、勉強する楽しさをきのくにで学びました。